

資料

大竹市工業用水道事業の紹介

○事業の主旨

大竹市は、積極的な企業誘致により瀬戸内海地域で有数の臨海工業都市として発展してきた。当初、上水道施設から供給していた工業用水は、企業進出とともに水需要の増大が見込まれた。

このような状況の中で、昭和26年から3ヵ年計画で工業用水道施設を新設し、さらに、洪水調節と工業用水の確保を目的とした多目的ダムの完成時期にあわせて昭和36年から4ヵ年計画で施設拡張事業に着手した。

平成5年には、かんがい用水、都市用水の不足を解消するため新しく建設されたダムを水源とする第2期工業用水道事業に着手した。

○事業の経緯

昭和26年3月、小瀬川を水源とする給水量10,000m³/日の認可を受けると同時に3ヵ年計画で施設の建設に着手し、昭和29年に給水を開始した。さらに、企業進出による需要拡大に対処するため、昭和39年に水源開発事業の一環として完成した小瀬川ダムを水源とする施設拡張事業に着手し、昭和39年10月から新規企業に給水を開始した。

その後、平成3年に完成した都市用水の開発等を目的とした弥栄ダムの使用権を広島県から譲り受け、平

成5年に産業振興を目的とした大竹港港湾整備計画による新規工業用地に進出した企業へ工業用水を供給する第2期工業用水道事業に着手し、平成17年3月から給水を開始した。

○ユーザーの概要

(平成19年4月1日現在)

業種	給水件数	契約水量 (m ³ /日)
紙・紙製品製造業	2	26,400
化学工業	4	24,200
その他	1	1,000
合計	7	51,600

○施設の概要

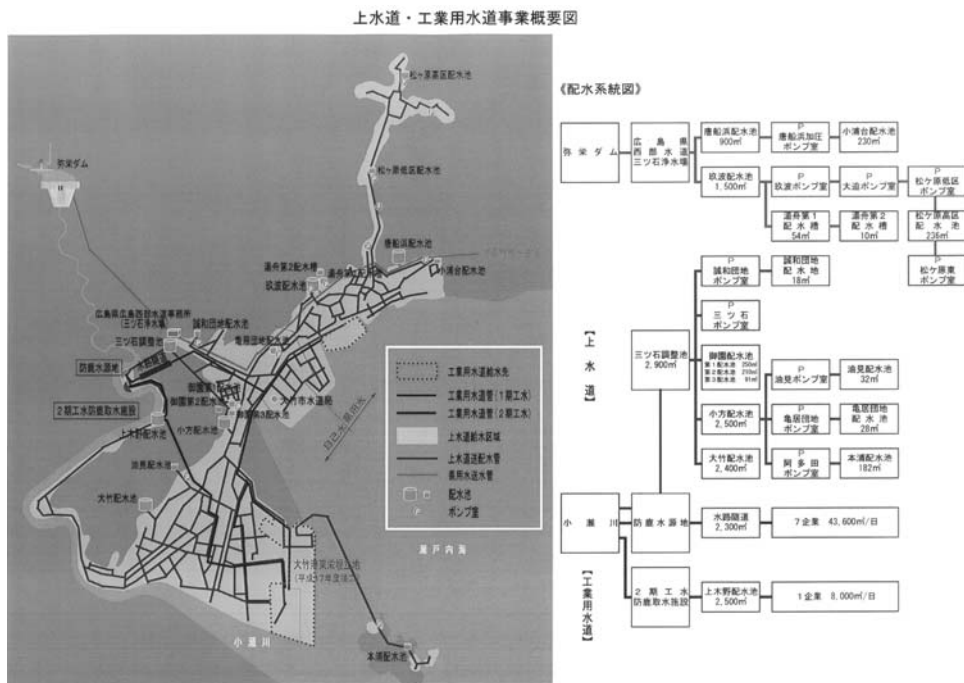
本事業は、山口県との県境に位置する小瀬川を水源とし、集水埋管により伏流水を取水している。

取水した水は、良質な水質を保っていることから、浄水過程を経ず、直接配水される。

導・送・配水管は、口径100mm~1,000mm、総延長約19kmを有し、水源から各配水池までポンプ揚水し、配水池以降は自然流下方式で臨海工業地域の受水企業へ配水される。

総配水能力は日量79,400m³を抱える。

○施設概要図



事業の特徴

本事業は、伏流水取水の形態をとることから、良質な水を安定供給できる。

工業用水道事業は、近年、契約水量の大幅な減量もなく、未売水量は日量5,800m³あるものの、経営は安定している。

第2期工業用水道事業は、景気の変動などで受水企業が撤退し、当初予定していた契約水量の1/3しか給水できていないのが現状で、このままでは経営は成り立っていない。将来の水需要を見極めた上で、事業の見直しなど早急に検討する必要がある。